

寺報

平成二十八年十一月
第七十五号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一

電話 〇二九四一七六一二〇五八

FAX 〇二九四一七六一〇一六九

伝灯奉告法要初日

いよいよ十月一日より伝灯奉告法要が始まりました。その初日への参拝依頼があり、私もお参りして参りました。伝灯奉告法要とは、以前からお知らせしている通り、親鸞聖人から代々浄土真宗のみ教えを守り受け継ぎ、二十五代の専如門主に伝えられた事を親鸞聖人の御前に告げると共に、内外に広く呼びかける事を目的とした法要になります。この法要は、五月三十一日まで十期(発行日現在第四期修行中)に分けて続けられます。この初日は、本願寺からの招待の者で、御影堂はほぼ満堂になっており、一般の方は廊下になで椅子を並べてお参りをされておりました。私は受付で手間取った事もあり、お堂内の北東寄りの椅子に座り、法要の開始を待ちました。



午後二時、喚鐘の音が鳴り響き、法要が始まります。喚鐘が鳴り終わると、静かに雅楽の音が聞こえてきます。この雅楽の音に合わせて、阿弥陀堂(本堂)からそれぞれ役を持ったものが歩きだし(行堂)それに続いて本願寺派の総長・総務や僧侶が続き、前門主・門主の



順で御影堂に入つて来られます。

御影堂は、本願寺の中で最も大きな建物でもあり、私の座った所からでは直接そのお姿を眺めるには難しかったのですが、モニターが何台も設置してあり、それによって内陣で今何をしているかがよく判るようになっておりました。

法要は、この度新しく作られた「奉讃伝灯作法」で行われましたが、正信偈とご和讃で構成され、途中に雅楽やエレクトーンの演奏が入ったりする「音楽法要」の形式を取っていますので、聞いていても耳に心地よいものです。

正念寺では、左記にある通り三月末に参拝に行きます。まだまだ大丈夫ですので是非皆さんで一緒にお参り致しましょう。



記

日時 平成二十九年三月三十日(木)～四月一日(土)

水戸駅発(八時十分)予定

参拝・観光

西本願寺(伝灯奉告法要)

宇治・平等院・奈良・東大寺・伊勢神宮・真宗高田派本山専修寺

しんらんさま

【第三回】

範宴(親鸞さま)は、苦悩を抱えながらも比叡山で二十九年にわたる修行を重ねて参りましたが、最初の夢告により受けた十年という寿命が近づいてくる中、苦悩の解決には至らず、大変苦しんでいたのでは無いだろうか。その為に、死後に極楽往生するための師は、いったい誰だろうかと悩んで、聖徳太子建立と伝えられる「六角堂」への参籠を行ったのでは無いだろうか。

この参籠の中で、性の問題を含む「破戒」が、極楽往生に障りが無いという確信を得た事によって、当時念仏一つで極楽往生出来ると、専修念仏の教えを説いていた「法然聖人」の門下に入る事となります。そして法然門下の中で綽空(後の親鸞)が法然より戴いた法名は、メキメキと頭角を現していききました。そういう中で、綽空(親鸞さま)の結婚という問題が起こって参ります。



それは、「正明伝」によると、専修念仏信者の一人であった「九条兼実」が法然聖人に、俗人である自分と、戒律を守る法然聖人やその門弟たちでは、極楽往生出来るか否かに差があるのではないかと質問した事に始まります。その問いに対して法然聖人は、阿弥陀仏の救いには、出家・在家の区別はもろろん、善人・悪人という区別さえ無いのだと答えます。

すると兼実は、もしも違いが無いというなら、弟子の一人を自分

の娘と結婚させて、その証拠を見せて欲しいと言いました。そこで法然聖人は、綽空(親鸞さま)に白羽の矢をたて、兼実の娘「玉日姫」と綽空(親鸞さま)は結婚する事となりました。

ところで、近世本願寺においては、親鸞の妻は「恵信尼」一人で「玉日姫」については単なる伝説であって実在していなかった、という立場ですが、その理由は兼実の日記などの確実な資料に出てこないからというものであり、何となく親鸞非存在論を言われた明治期と重なるものを感じるのには私だけでしょいか？

当時の時代背景や、法然聖人とその門下の関係を考え合わせると、師である法然聖人から言われたのなら、綽空(親鸞さま)にとつては拒否するという選択肢は無かったようにも思われます。そして何よりも、法然門下に入ってまだ日も浅い綽空(親鸞さま)が、流罪(拾遺古徳伝によれば、実際には死罪、罪一頭減じて流罪)にあつていという事実を考えると、流罪は綽空(親鸞さま)が玉日姫と結婚した事に因る「破戒」が原因ではなかったかと考えれば、大変納得がいくのではないでしようか。

では、今回は、流罪先「新潟」での暮らしなどを見てみましょう。

(つづく)



初参り

初めてお寺にお参りされた赤ちゃん、そしてご両親、お爺ちゃん・お婆ちゃん、結婚して初めてお参りされた方などをご紹介していきます。是非沢山の方が、機会を見つけにお参り下さい。



永山 直子さん 永山 拓也さん
 永山 愛奈ちゃん 永山 智也君
 2歳5ヶ月 8ヶ月



増淵 美保さん 増淵 昌明さん
 増淵 真奈ちゃん
 1歳9ヶ月



ご門徒さん紹介

今回ご紹介する門徒さんは、料理家の顔と武道家の顔を持つ安二郎さんです。

安さんは、平安朝から伝えられる包丁儀式を司る「四条流」十二代目家元に師事し、免許皆伝の方です。

包丁儀式とは、魚・鳥・野菜などの食材に一切手を触れずに、真魚箸まなばしと包丁だけで調理をします。

食材に手を触れない「衛生思想」や食材に対して「礼節」を持つてあたるなど、単に歴史ある儀式という事で無く、日本人の食に対する姿勢を伝える儀式でもあるのでしよう。

また、武道家としては、「無比無敵流杖術」むひむてきりゅうじょうじゆつ「為我流派勝新流柔術」いがりゅうはかつしんりゆうじゆの免許皆伝でもあります。

「無比無敵流杖術」は、槍の名手「佐々木哲斎徳久」によって開かれ、六代目が水戸藩に仕えて水戸近郊に伝承され、自衛武術として栄えました。安さんは、「為我流派勝新流柔術」と共に現在の宗家である



の「根本憲一唯之氏」に師事し、これらの武芸を極められました。これらは共に、「自衛」にその基をおく武芸のようです。
 スペースの関係で、極めて大雑把な説明しか出来なかったのが残念です。

感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させていただきます。

一、永代経として

金 壱拾万円

小澤 裕市様

今年も沢山のお仏供米をご奉納戴きました。

ここに謹んでご報告させていただきます。

十月十六日現在

常陸太田市

井坂 孝一様

井坂 哲也様

井坂 照雄様

井坂 友之様

井坂 浩様

井坂 豊子様

小菌 篤様

小菌 達雄様

小菌 浩文様

小菌 光晴様

関 守様

仲村 義信様

平山 昌邦様

那珂市

會澤 宏様

大曾根 虎夫様

櫻村 一洋様

櫻村 欣也様

櫻村 勤様

利弘様

片岡 稔重様

小澤 喜一様

小澤 三喜男様

萩野谷 定之様

平山 俊夫様

箕川 峻様

箕川 庄造様

吉澤 国裕様

ご奉納戴きましたお仏供米は大切に使用させていただきます。

教えてください

皆さんの回りに、何か特技を持った方いらっしゃいませんか？

何か自慢出来るもの持っている方いらっしゃいませんか？

紙細工の得意な方や木工の得意な方。是非教えて下さい。そして、「ご門徒さん紹介」の欄で紹介させて頂きたい。

よろしくお願い致します。



住職雑感

報恩講法要がやってくると、まもなく各地でのお取り越しのお勤め、そして年末の除夜会と慌ただしく時間が過ぎていきます。

慌ただしいという字は、心が荒れると書きまます。そう考えると私たちは、慌ただしく過ぎる時間の中で、自らの心を荒れるままにして時間を過ごしているのかもしれない。

慌ただしいと似た言葉に、忙しいという言葉があります。この字は、心を亡くすと書きまます。忙しい忙しいと時間を過ごしている現代人は、もしかしたら心を亡くして毎日を過ごしているのかもしれない。

あるサイトの「忙しい人」と「余裕のある人」の十のの違いというのを読んでいたら、その中に「やるべき時にしっかりと集中出来ているかどうか」と言う項目がありました。確かに自分を振り返ってみても、ダラダラと時間を過ごしてしまいい、期日が迫って忙しい忙しいと言っている自分がいたりします。

慌ただしく過ぎる時間も、忙しく過ぎる時間、もしかしたら自分の心の持ちよう、あるいは自分の計画の立て方で、どうにでもなるものなのかもしれません。

そう考えると、忙しいという前に、自分の予定をもう一度見直してみる事も必要なのかもしれませんね。